

日本航空株式会社所属
ダグラス式DC-10-40型JA8540
に関する航空事故報告書

昭和56年7月8日

航空事故調査委員会議決(空委第38号)

委員長	八田桂三
委員	榎本善臣
委員	糸永吉運
委員	小一原正
委員	幸尾治朗

1 航空事故調査の経過

1.1 航空事故の概要

日本航空株式会社所属ダグラス式DC-10-40型JA8540は、昭和56年5月9日、定期354便として、福岡空港を離陸し東京国際空港へ向け飛行中、09時59分ごろ旅客1名(男性81才)が病死した。

1.2 航空事故調査の概要

昭和56年5月11日 事実調査

2 認定した事実及び事実を認定した理由

JA8540は、昭和56年5月9日09時11分、旅客239名(幼児2名を含む)、乗組員11名がとり乗し、福岡空港を離陸し巡航高度33,000フィートで東京国際空港へ飛行中、09時55分ごろストレッチャー(担架)運送旅客1名の容態が急変した。

なお、同旅客は、病院の診断書によると「脳こうそく」、「胃がん」、「うっ血性心不全」の患者

337001

であり、神奈川県内の病院へ移送するため付添人3名とともにとう乗していたものである。

このため、客室乗務員は、機長に報告するとともに旅客中の医師2名に手当を依頼し、当該医師により心臓マッサージ、酸素吸入等の応急措置がとられたが、診断の結果、09時59分ごろ浜松市上空付近で死亡が確認された。

同機は、10時28分東京国際空港に着陸し、東京都監察医による死体検案が行われたが、その結果、死因は「うっ血性心不全」であった。

原 因

本事故は、飛行中にストレッチャー（担架）運送旅客が「うっ血性心不全」により病死したことによるものと認められる。

337002